

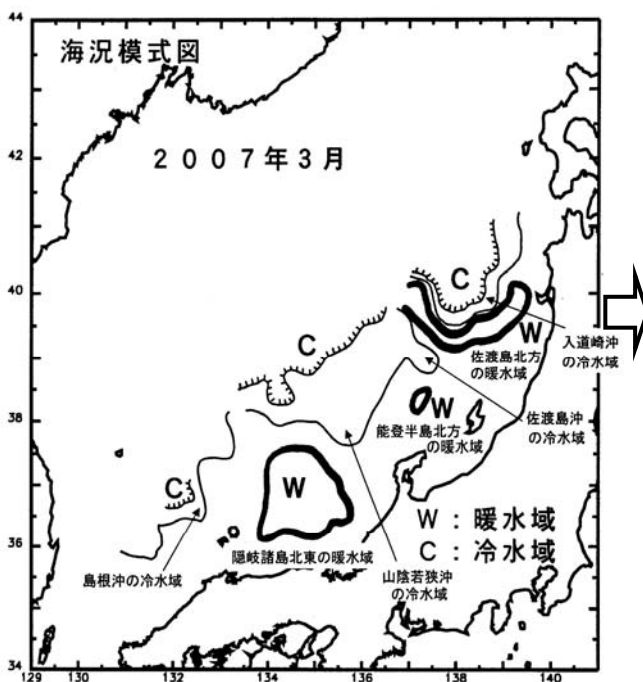
平成 19 年度第 1 回日本海海況予報

一別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果一

今後の見通し (2007年4月~6月)

対馬暖流域の表面水温は、“やや高め” (+1℃程度) で経過する。

対馬暖流域の 50m 深水温は、西部及び北部とも“やや高め” (+1℃程度) で経過する。



2007年4月~6月の海況

- 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する。
- 能登半島北方の暖水域は、北東に移動する。
- 佐渡島北方の暖水域は、2つに分裂して東側のは北上した後消滅し、西側のは停滞した後消滅する。
- 島根沖、山陰・若狭沖及び入道崎沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。
- 佐渡島沖の冷水域の張り出しは、弱い。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1

電話：03-3502-8111 (内線 7375)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：yuusuke_satoh@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

〒951-8121 新潟市中央区水道町 1 丁目 5939-22

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950、電子メール：fra-jki@ml.affrc.go.jp

本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、独立行政法人水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び日本海区水産研究所のホームページ (<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp>) に掲載されます。

参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県水産試験場	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁増殖推進部漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所

平成19年度第1回日本海海況予報

1. 今後の見通し(2007年4月～6月)

- (1) 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する。能登半島北方の暖水域は、北東に移動する。佐渡島北方の暖水域は、2つに分裂して東側のものは北上した後消滅し、西側のものは停滞した後消滅する。
- (2) 島根沖、山陰・若狭沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“やや高め”で経過する。

2. 経過(2006年11月～2007年2月)

- (1) 11月に隠岐諸島北東でみられた暖水域は、やや東に移動した後停滞。
11月に能登半島沖でみられた暖水域は、北上した後2つに分裂。
11月に佐渡島北方でみられた暖水域は、ゆっくりと北東に移動。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域は、大きくて接岸。佐渡沖の冷水域は、規模は小さく接岸状況は平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸(11月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
11月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや高め”となり、能登半島以西では“かなり高め”の海域が分布。
12月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや高め”となり、佐渡島以西及び隠岐諸島周辺では“かなり高め”の海域が分布。
2月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや高め”となり、能登半島～佐渡島周辺では“かなり高め”の海域が広範囲に分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(10～12月平均)。

3. 現況(2007年3月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北東、能登半島北方及び佐渡島北方に分布。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域は、規模は小さくて離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、ほぼ全域で“やや高め”～“かなり高め”となり、隠岐諸島北東及び能登半島北方では“はなはだ高め”の海域が広範囲に分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“かなり高め”(1～3月平均)。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

”かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

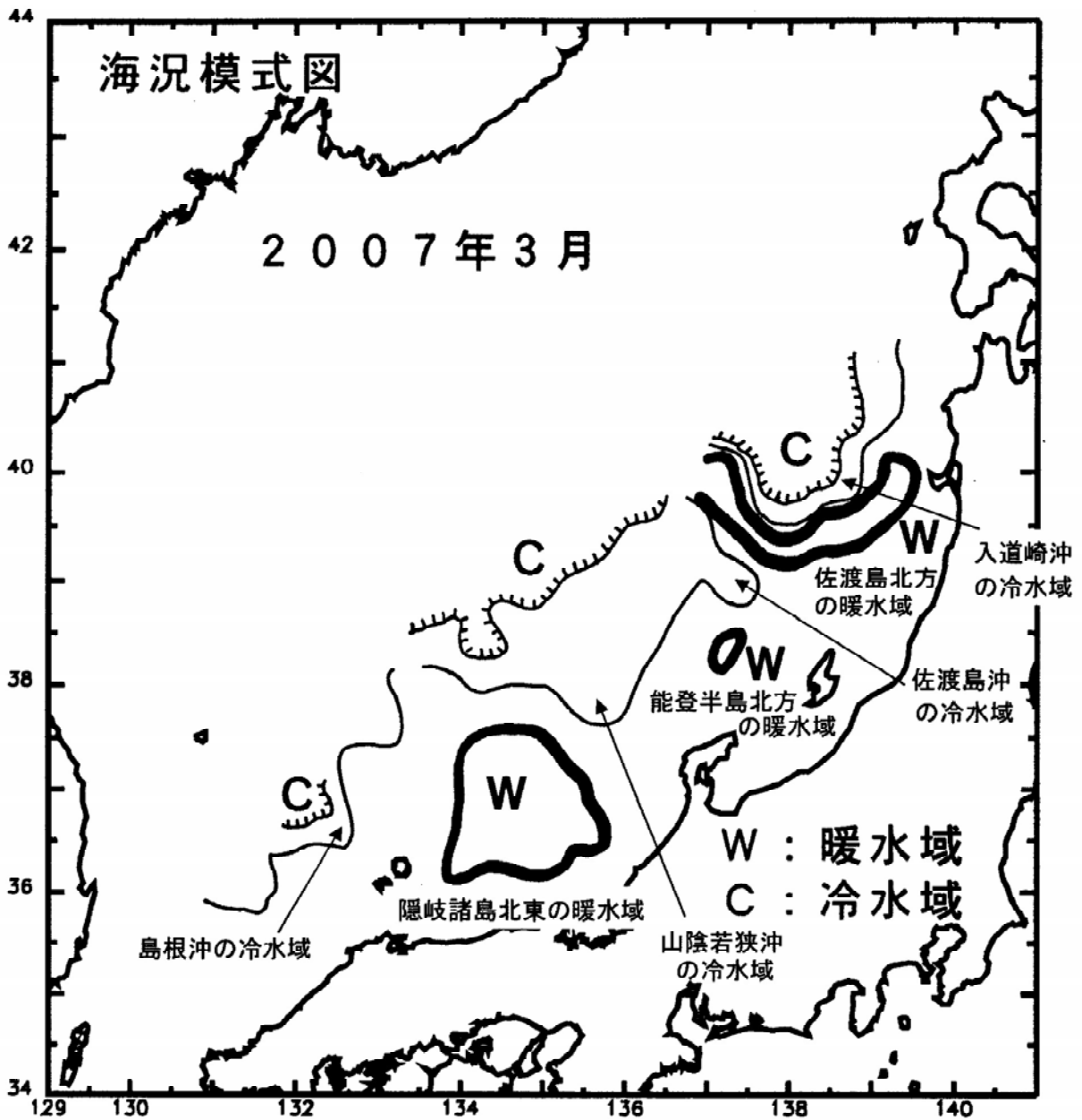
”やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

”平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

”やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

”かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

”はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2007年3月の海況模式図